

報告事項ト

青谷上寺地遺跡のボーリング調査結果について

青谷上寺地遺跡のボーリング調査結果について、別紙のとおり報告します。

平成29年3月18日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

青谷上寺地遺跡のボーリング調査結果について

平成29年3月18日
文化財課

従前の調査により、青谷上寺地遺跡の交易を支えた港が遺跡北側に存在することが指摘されていたが、今回のボーリング調査により、港の場所を探すうえで有効な資料を追加することができた。

1 調査の目的

今後実施する発掘調査（史跡整備に反映させるため港の場所を探すための調査）について、調査区の場所や必要な面積等を決定するためのデータを得る。

2 ボーリング調査の概要

- (1) 調査日：平成29年2月7日（火）
- (2) ボーリングの仕様：掘削深度6m、掘削口径116mm
- (3) 調査場所：鳥取市青谷町青谷字下寺地 ※遺跡中心域（弥生人の活動の舞台となった微高地）と内湾との境界付近と想定される場所（2地点、下図参照）

3 調査の所見 ※とっとり弥生の王国調査整備活用委員会 辻誠一郎委員（古環境学、東京大学大学院教授）の解析による

- ①河川により内湾が埋め立てられた砂礫層（デルタ堆積）の上に、人間活動の痕跡を示す「人為堆積層」（炭や木片、弥生時代中期～後期の土器片等が混入）がある。
- ②人為堆積層は標高の低い場所に堆積しており、内湾に近かった可能性がある。
- ③内湾に近い場所での人間活動の例としては、港や波除け堤防の構築等があげられる。

4 今後の調査計画

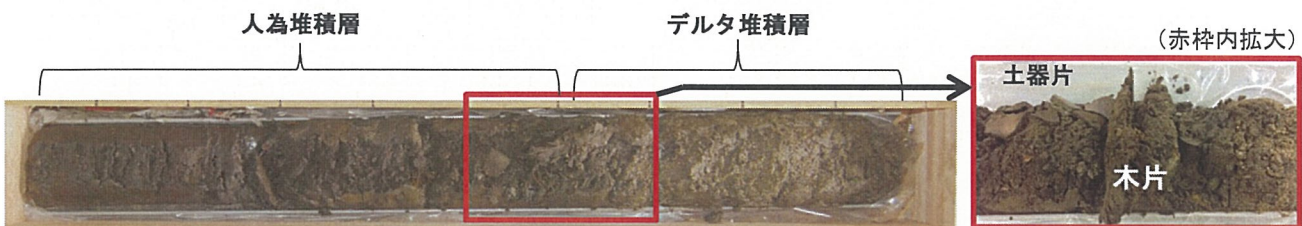
港の確認には発掘調査が必要。平成29年度もボーリング調査を継続して行うとともに、今回採取した土壌の科学的分析や既存ボーリング資料の再検討等を行い、それらの成果を踏まえて平成30年度以降に港の確認を目指す発掘調査を実施する。



弥生時代（1800年前）の青谷平野復原図



ボーリング調査地点位置図



採取したボーリング資料（H28-1地点 深度3～4m）